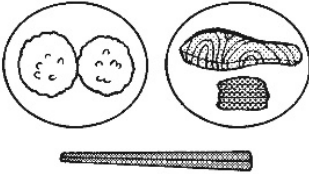
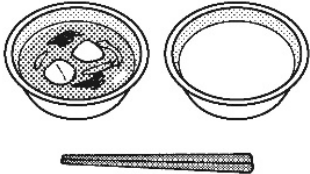
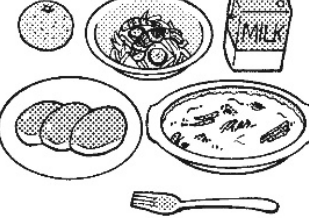
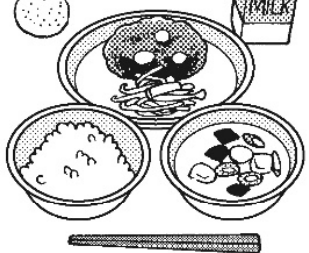




あけましておめでとうございます。冬休みが終わり、学校給食が始まります。みなさんがいつも食べている給食は、いつから始まったのか、知っていますか？下のまとめを見て学校給食の歴史を振り返ってみましょう。

さて、1月24日から1月30日までは全国学校給食週間です。いつも食べている給食に目を向けて、給食の役割について考えてみましょう。細谷小ではこの期間に、世界の料理や宮っ子ランチが給食でです。楽しみにしててください。そして、2023年も「早寝・早起き・朝ご飯」を合言葉に元気に生活していきましょう！！

おにぎりから始まった学校給食

明治22年 (1889年)	昭和22年 (1947年)	昭和58年 (1983年)	現在 (2023年)
 ・おにぎり ・塩さけ ・菜の漬物	 ・ミルク(脱脂粉乳) ・トマトシチュー	 ・ツイストパン ・牛乳 ・卵とほうれん ・そうのグラタン ・えびのサラダ ・くだもの(みかん)	 ・ごはん ・牛乳 ・豆腐のハンバーグ ・あえ物 ・みそ汁 ・みかん

学校給食は、明治22年(1889年)に山形県鶴岡町(現在の鶴岡市)の私立忠愛小学校で貧困児童を対象に、無償でおにぎりなどを提供したことが始まりです。

©少年写真新聞社2022

1月24日～30日は全国学校給食週間です

学校給食は、栄養バランスがよく、子どもたちの心身の発達や健康を支え、食に関する指導をすすめるための教材になっています。また、偏った食生活、肥満傾向など、子どもたちの食生活を取り巻く環境が大きく変化している中で、学校給食は、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるために重要な役割を果たしています。

学校給食週間では、子どもたちや先生だけではなく、地域の人にも、学校給食の意義や役割について理解を深め関心を高めるために、全国でさまざまな行事が行われています。

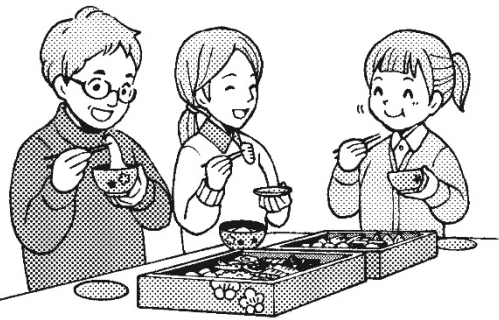
この機会に家族で給食について考えてみませんか

©少年写真新聞社2022

しょう がつ た りょう り お正月に食べるおせち料理

おせち料理とは、もともと季節のかわり目の「節日」に、神様に供える食べ物の「御節供」が略されたものです。その後、特に大切な節日であるお正月のみ、「おせち料理」と呼ばれるようになりました。おせち料理の一つひとつに、意味があり、願いが込められています。

また、家庭や住んでいる地域によって、料理や重箱の詰め方なども違います。自分の住んでいる地域や家のおせち料理はどんなものでしょうか。



©少年写真新聞社2022

SDGs (持続可能な開発目標)

うみ ゆた まも 14. 海の豊かさを守ろう

海は、地球の面積の7割を占め、豊かな資源をわたしたちに与えてくれます。ところが、魚のとり過ぎにより資源が減り、わたしたちが出すプラスチックなどのごみや排水によって海が汚れてしまっているなどの問題を抱えています。

海の豊かさを守るために、自分たちにできることを、考えてみましょう。

14 海の豊かさを守ろう

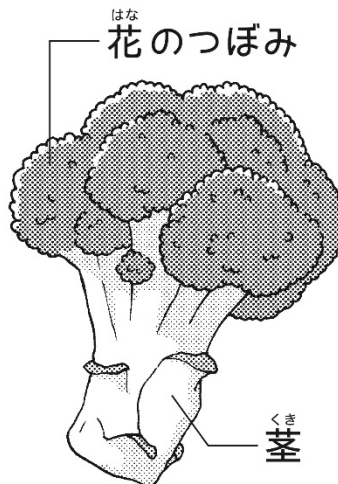


©少年写真新聞社2022

はな くき た 花と茎を食べる ブロccoli

ブロッコリーは、花のつぼみと茎を食べる緑黄色野菜です。わたしたちがよく食べているつぶつぶした部分はつぼみが集まったものです。

ブロッコリーには、カロテンやビタミンC、ミネラル、食物繊維など、わたしたちの健康に必要な栄養素がたくさん含まれています。



©少年写真新聞社2022

あら のこ ちゅう い 洗い残しにご注意を



©少年写真新聞社2022